こんにちは

第19号
2015.3
興道西部保育園
米沢市木場町2－9
TEL 0238-24-8558
題字　緒勝歩里

西部保育園でーす

子どもたちへの想い

興道西部保育園園長　鈴木良知

子どもはよく走ります。ただ走り回っているだけなのに、本当に嬉しそうに笑っていることを目にします。ある日、小さな子に尋ねてみました。「何で走るときに笑っていたの？」と。すると、「楽しいから」と答えが返ってきました。

さて、文部科学省の「体力・運動能力調査」によると、子どもの体力・運動能力は、昭和60年頃から現在までずっと低下しているそうです。現在の子どもと、親世代の30年前のデータを比較すると、現在の子どもが親の世代の体力・運動能力を下回っており、一方で身長、体重など子どもの体格については、現在の子ども世代が親の世代を上回っているそうです。体格は良くても、体力で劣る子どもが増えたことは、何もその子どもたちに責任がある訳ではありません。30年前と比べれば食べるものは豊かになり、栄養状態が良くなりました。体格が良くなるのも道理です。しかし、のびのびと身体を使って遊ぶ場所が減ってしまいました。

子どもたちは身体を動かすことは大好きなのです。それは今も昔も変わらないのだと思います。当保育園では、お預かりしている子どもさんの心身の健康に役立つようにバランスの良い美味しい食事を用意し、また、運動を出来る環境を整えています。楽しく身体を動かす気持ちを大人になっても持ち続けてもらいたいと心から願います。

我が家のめんこ Part-15

子どもと一緒に一歩ずつ

ゆり組　横山彩花さんの母

よく飲み、よく寝る子。大人しくて育てやすい。そう思えたのは生後5ケ月まででした。6ケ月を過ぎた頃から、彩花も抱っこは私（母）じゃないと嫌。その自己主張の強いこと。諦めない、頑固、激しい主張。上の子優先にと言っても、要求が通るまで諦めない彩花の主張には、2歳1ケ月上のお姉ちゃんのイヤイヤ期さえ、楽に思えました。2歳を過ぎると、言葉が出ないことが心配の種でした。その割に主張が強く、気に入らないとひっくり返る、わめく、激しいかんしゃく、彩花にはしっかり手をかけてあげなければ…。と覚悟しました。家事と仕事に追われ、子育てが後回しになり、家での言葉かけが少なかったのかな。と自分を責めることもありました。そんな時も相談に乗ってくれたのは、保育園の先生方です。「彩花ちゃんは言葉が出なくても、気持ちを十分伝えられるから、もう少し待ってみましょう」その一言に救われました。今では何でもペラペラ喋っています。

2011年3月11日の東日本大震災、彩花はお姉ちゃんと共に、名取市の私の実家にいました。私は出張で横浜にいて、足止め。津波の被害を新聞で知り、何とか子どもたちに会いたい。余震がくるたび、被災地に残してきた子どもたちの無事を願っていました。保育園の先生から泣きながら心配の電話がきた時に、大切に育ててもらっていると改めて感じました。

育児に悩み、迷う時期もありましたが、今では、家族の中で誰よりも気が利く女の子です。自分から何でも気付いて動いてくれるので、「言われる前に出来てすごいね。ありがとう。」いつもお礼を言ってばかりです。

ここまで育ててこられたのは、保育園の先生や地域の方々の協力があったからだと思います。大きな支えになっていただき、大切に育てていただき、本当にありがとうございました。

キラキラ連絡ノートより

☆雪が降るのを心待ちにしていたSちゃんですが、いざ雪が降ったら「早く夏にならないかな～」と言いました。理由を聞いたら「だってなかなか雪が止まらないんだもん！」と言いました。さすがのSちゃんも、このドカ雪に嫌気が差したようでした。（4歳児、男児）

☆家にシチューの本があるのですが、その中のブロッコリーがパパ、玉ねぎがママ、にんじんがねえねえ、じゃがいもがJと決めてお話をしているので、食材にその材料があると「あ、Jがいる」と言って食べています。妹がなぜかアスパラとJが決めました。少しずつお野菜食べられるよう頑張りたいと思います。（2歳児、男児）

『どんなときでも…』

忘れもしない4年前の東日本大震災。この日をきっかけとして、冬の時期の災害を想定し、より安全に子どもたちが避難するにはどのような方法が良いか検討しました。

幼児組はすぐに防寒着を着用できるようにし、乳児組は歩くこともままならないため、散歩車の代わりに大型ソリを利用し、雪国ならではの避難を工夫しました。

いつどのような時にでも対応できるよう訓練を重ね、子どもたちの安全を最優先し、命の尊さや大切さを繰り返し伝えています。

編集後記

朝夕、親子で一緒に登降園している姿に、親子の絆の温かさを感じています。子どもたちの成長をお家の方と一緒に喜び合いながら、温かみのある保育をしていきたいと思います。

人を好きになる

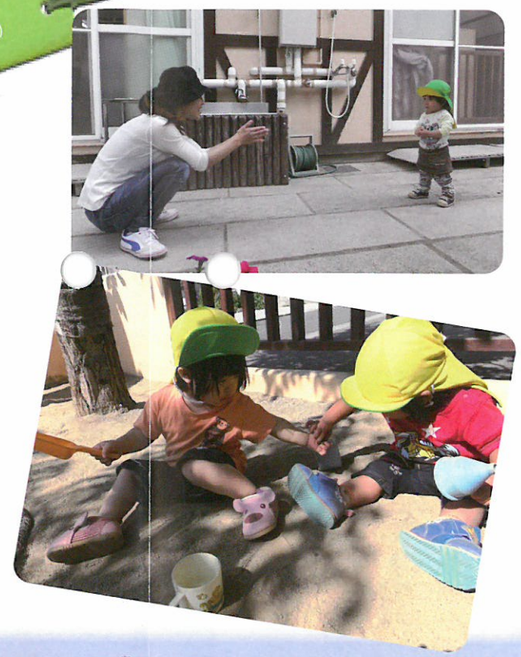
私たち人間は、人に囲まれ人と関わりながら生きています。これは生まれてからすぐにはじまり、様々な人間関係を築きながら成長していきます。つまり乳幼児期には人間関係の基礎がつくられるのです。この時期に大人たちからたっぷりの愛情を受けて安心して自己発揮し、認められることで、人への信頼感が持てるようになることが大切であると考えます。

園生活でのたくさんの体験を通して一緒に喜び合うことで、子どもたちが愛される喜びを感じ、人を好きになり、生きていく楽しさを体感することを大切に保育しています。

さくら組（0歳児）

子どもたちの要求を受けとめながら一人ひとりに合わせたかかわりを大切にしています。あそびの面では、スキンシップを心がけながら、ふれあいあそびをたくさんしています。毎日、子どもたちの反応が変わり、成長と共に豊かになっていく表情がとてもほほえましく、かわいい0歳児です。

うめ組（1歳児）



1歳児は生活やあそびのなかで、大好きな保育者にたくさん甘え、一緒にあそぶことを大切に保育をしています。この経験を通し、人とふれあう喜びや楽しさ、温かさを感じ、自分の気持ちを表現することが身についていきます。

もも組（2歳児）

夢中になってひとりあそびをしていた子どもたちが、友だちとかかわり、ことばでやりとりしながらあそぶようになりました。「えんそく いこう」とイメージを膨らませて友だちとごっこあそびを楽しんでいます。
また、運動能力も高まり、活発に体を動かすことができるようになりました。リズム運動では「みてみて」と嬉しそうに保育者に知らせ、年上児のかっこいい姿を真似ながら、喜んで体を動かしています。

たんぽぽ組（3歳児）

幼児組になって異年齢のかかわりが増え、いろいろな友だちとのつながりも広がっています。年上の子にあそびを教わったり、手助けをしてもらうことで自信が生まれ、見て・まねて・学ぶことでいろいろなあそびに興味をもつようになりました。年上の子からルールやあそび方を教えてもらい一緒にあそんでいます。

すみれ組（4歳児）

一人ひとりが身近な自然や素材に触れて遊ぶ機会や、興味や育ちに応じたあそびの環境作りを心がけています。
自己主張が強かった子どもたちですが、様々な体験を通して自分の思いを発揮するだけではなく、友だちの思いに耳を傾け、思いを認めることが少しずつできるようになってきました。また、友だちと一緒に活動することに喜びや楽しさを感じ、ルールを守る大切さに気づくようになりました。
これからも様々なあそびや体験を重ねていき、友だちとのかかわりを深め、協調性や思いやりの気持ちを育んでいきたいと思います。

ゆり組（5歳児）

自分の気持ちや意見をはっきりと言えるようになってきました。友だちと意見が合わずに言い合いになったり、思いが通らない悔しさも経験してきました。
けれど、その中で話し合うことで友だちの気持ちに気づいて、どうしたらよいかを一緒に考え、調整することもできるようになりました。行事の中でも役割を決めたり、誘い合い練習するなど友だちとのつながりを大切に思う姿が見られます。